

2026年
1月号

さるびあだより

発行日：令和8年1月10日 発行者：医療法人社団英世会介護老人保健施設サルビアPR委員会
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-18-1 TEL042-589-3270 FAX042-589-3271

元旦 サルビア4階食堂より撮影

謹賀新年 本年もどうぞよろしくお願いいたします

新年のご挨拶

施設長・医師 福井 一成

サルビアをご利用の皆様、ならびにご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。
健やかな新年をお迎えになったことと、お慶び申し上げます。

さて、今年は「ウマ年」ですが、ウマにもいろいろな種類のウマがいます。正月に子供が乗るのが竹馬、河ににいるのが河馬（カバ）、海ににいるのが海馬（かいば）・・・あっ、脳の中にもありますね。記憶に関係している部分が海馬（かいば）！高齢になると、海馬の細胞数も体積も減ってくるので、モノを覚えられなくなり、認知症になります。ドネペジルやメンマチンなどの認知症の薬がありますが、これらの薬を飲んでも海馬の細胞数も体積も増えません。では、どうするか？

それは ①有酸素運動をすること ②何か新しいことを暗記すること。

そうすれば、神経幹細胞から海馬細胞が作られるのです。

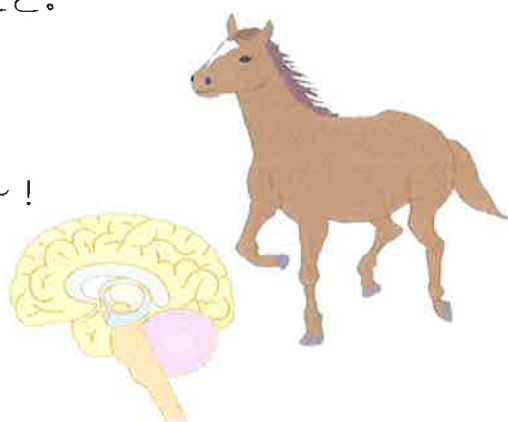
有酸素運動とは、散歩したり、車椅子を自走すること。

新しいことの暗記はカルタですね。10枚ほどの絵札を並べ、

絵・文字・置き場所を暗記してから、ゲームを開始。ちはやふる～！

話が長くなったので、このくらいにしておきましょう。

それでは、旧年と同様に、本年もまたサルビアのことを
どうぞよろしくお願いいたします。



副施設長・事務長 光山 章子

新年あけましておめでとうございます。

ご利用者の皆様、ご家族の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。昨年12月より事務長として着任し、早いもので一か月が経ちました。ご利用者の皆様が安心して穏やかにお過ごしいただけるよう、職員一人ひとりが日々心を込めてケアにあたっている姿に触れ、この施設を支える一員として身の引き締まる思いでございます。本年も、職員が力を合わせ、ご利用者お一人おひとりの思いに寄り添った支援を大切にしながら、あたたかく安心できる施設づくりに努めてまいります。ご家族の皆様におかれましては、何かお気づきの点がございましたら、どうぞお気軽にお声がけください。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

副施設長・入所リハビリ室長 中村 敏郎

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は物価の高騰、初の女性内閣総理大臣の誕生、記録的な猛暑など、さまざまな出来事がありました。今年もウクライナ情勢や日中関係の悪化など、課題は続くと思われますが、私たちサルビアでは、AIやDXといったITの波に乗り遅れないよう、業務改善と効率化のためにIT化を進める必要があります。これにより、ご利用者と向き合う時間を増やし、問題解決に充てる時間を確保できていると考えています。また、次の介護保険改正への準備も重要な課題です。本当にやるべきことが多くあります。さらに、2025年問題に関連して、団塊の世代の方々が次々と入所される中、地域包括ケアの質を高める段階に入っています。サルビアが日野市において老人保健施設としての役割をしっかりと果たすことが求められています。職員一丸となって、地域に選ばれる施設を目指して努力していきたいと思っております。

入所介護長 櫻田 敬

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

ご家族の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、当施設の運営に対して多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年は何より、数年ぶりに「秋祭り」を開催し、ご家族の皆様にもご参加いただけたことが大きな喜びでした。ご利用者とご家族の皆様が共に笑顔で過ごされる姿を拝見し、私たち職員も改めて「直接触れ合える絆」の大切さを強く実感した次第です。本年も安心・安全な生活を第一に、皆様との交流の機会を大切にしながら、心温まる行事や企画を数多くお届けしてまいります。本年も変わらぬご厚情を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

通所リハビリ室長 石井 雄大

ご利用者、ご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、当施設の各種サービスご利用にあたりご協力をいただき、また格別のお引き立て誠にありがとうございました。新年寒い日が続いておりますが体調に気をつけ良い一年にしましょう。

2025年は団塊の世代の方々が後期高齢を迎え、地域包括ケアの本格的な始動に入った節目の年となりました。また、物価高騰や長い夏など気候面でも大変な時期が多かったように思います。サルビアも地域、皆様と共生し身近な存在として向上心を持ち、より一層努力して参ります。2026年は介護DX、生産性向上など新たな取り組みを通して限られた人員、環境下で質の向上を目指し、工夫とチャレンジをしていきたいと考えています。「コミュニケーション」を大切に地域・施設の為、またその先の皆様へサービス還元という形になりますよう真摯に向き合っていく所存です。どうぞ本年も宜しくお願い致します。

副看護長 藤田 栄輔

新年あけましておめでとうございます。

2026年は午年。力強く駆ける馬のように、私たちも一步一步、確かな歩みを重ねてまいります。本年はアジア競技大会が開催される年でもあります。選手たちの挑戦する姿に励まされながら、私たちもチームで支え合い、安心と笑顔を届けるケアを大切にしていきたいと思っております。ご利用者お一人おひとりの声に耳を傾け、心に寄り添う看護を通じて、より豊かな日々をともに築いてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。